



くらし

家族介護者交流会

日 3月19日(木) 午後1時～3時
場 教育センター 3階セミナー室2
対 高齢者の介護をしている方、またはしていた方
内 介護セミナー「アロマの香りで心も身体も健康に」
期 3月17日(火)まで
申 窓
問・申込 (市)介護保険課 介護予防係



全国自殺対策強化月間
こころの相談窓口
相談無料・秘密厳守

日 月～金曜 午前9時～午後5時
(12月29日～1月3日、祝日除く)
☎89-2471
時間外
兵庫県いのちと心のサポートダイヤル
・月～金曜
午後6時～午前8時30分
・土日祝 24時間対応
☎078-382-3566
問 (市)障害福祉課

Hello Friends
(ALT英会話サービス)

WEB「三木市学校教育課」で検索
問 (市)学校教育課

福祉コンシェルジュ
(福祉制度案内人)を配置

福祉部門(高齢者福祉、生活支援、障がい者福祉、医療保険、介護保険など)に関して、相談や案内、各種申請書の記載案内を行っています。

福祉部門での問い合わせや相談に利用してください。

問(市)福祉課 生活支援係

農地中間管理事業出張説明会(農地の貸し借りなど)

日 3月16日(月)
午前10時～午後3時30分
場 市役所 2階入札控室
対 農地の維持管理に不安がある、農地を借りたい方など
内 農地中間管理事業に関する制度を個別に説明・相談。農地の借受・貸付希望登録の受付。

問(公社)兵庫みどり公社
加東農地管理事務所
☎0795-42-9421



清掃センターへの直接搬入時も分別を

家庭ごみを直接持ち込む場合、可燃・あら・埋め立てごみなど、ごみの種類によって降ろす場所が異なります。ごみステーションに出す時と同じように、分別してください。

特に、第3日曜、ゴールデンウィーク、年末年始の搬入は時間がかかりますので、分別することでスムーズに搬入できます。ご協力をお願いします。

搬入受付時間

・月～金曜(祝日含む)
午前8時30分～11時30分
午後1時～3時30分
・第3日曜 午前8時30分～11時30分

問 清掃センター ☎83-2608

水銀使用製品の分別回収が始まります

水銀を含んだ廃製品の分別回収が4月から始まります。

廃製品のみを透明または半透明の別の袋に入れて埋め立てごみの収集日に地域のごみステーションに出してください。

対 蛍光灯、乾電池、ボタン電池、水銀温度計、水銀体温計、水銀血圧計

問 清掃センター ☎83-2608



兵庫県特定(産業別)最低賃金が改正

兵庫県特定(産業別)最低賃金が令和元年12月1日に改正されました。

最低賃金は、パートタイマー、アルバイトなどすべての労働者に適用されます。

詳細は問い合わせください。

問 兵庫労働局労働基準部賃金室
☎078-367-9154



人権の目

人権の目

198

おばあさんからのプレゼント

三木市人権・同和教育協議会 人権教育・啓発専門員 東田 寿啓

被差別部落に住む、一人暮らしのおばあさんが亡くなり、お通夜の日に親戚でもない中学生5人が参列していました。近所の住民は事情を知っていて「ああ、あんたらがそうか」「よう参ったってくれたな」と声をかけました。

中学生の1人は、父親を早くに亡くし、学校に遅刻したり、休んだりすることが多かった子ですが、たまたまこのおばあさんの家の前を数人で通りかかったところ、おばあさんから声をかけられました。「そんなところにおらんと、こっちにおいで」と家に招かれ、「歯が悪いから食べられへんねん。食べて」と飴をもらい「いつでもおいで」と言ってくれたので、何度かお邪魔するようになっていまし

た。おばあさんも若い子との出逢いを喜び、家族のような付き合いをしていました。

ある日を境におばあさんの顔を見なくなりました。体調が悪く、入院していたのです。病床でおばあさんは「もう一度あの子らに逢いたい」とずっと言っていたそうです。娘さんが校長先生にその話をしたところ、校長先生は事情を察して中学生に声をかけ、一緒にお見舞いに行くことになりました。中学生はずっとおばあさんの手を握り「はよ退院してよ」、「元気になるってよ」と声をかけ、おばあさんも「あんたらが来るのを待ってるわな。ここと違うで。家で、や」と約束を交わしました。でも、その願いは叶いませんでした。

このおばあさんが生きた地域は「部落」などと呼ばれ、多くの人が食肉産業に従事していました。おばあさんも若い頃から、骨身を惜しまず働いてきました。部落差別はさまざまな形で起きており、今もなお、偏見を持ってしまっている人がいます。

中学生は、おばあさんとの関わりを通じて、人の出会いや付き合いの大切さを学びました。人と人とのつながりは、それぞれが生まれ育った場所など関係なく、それぞれの視点から築かれていくものだと思えます。たしかに、長年の間に培われた差別感情や偏見は簡単にはぬぐいきれないでしょう。それでも諦めず、寄り添い、偏見を改めてもら

えるよう、時間をかけて関わっていくことが大事です。

私は、人権を身近に感じてもらう、みんなの人権を大事にする地域づくりをめざし、フィールドワーク事業などを企画しています。その企画に参加された70代の方が、こんな感想を寄せてくださいました。「人権問題には今まで無関心だったが、今回初めて参加させていただき、色々勉強になった。年はとってきたが、自由な時間がある中で、学ぶべきことはいくつでもありそう」と。人はいくつになっても変わることもできます。人権を大切に、より良い生き方を探していくという姿勢は、年齢には一切関係ないのです。